

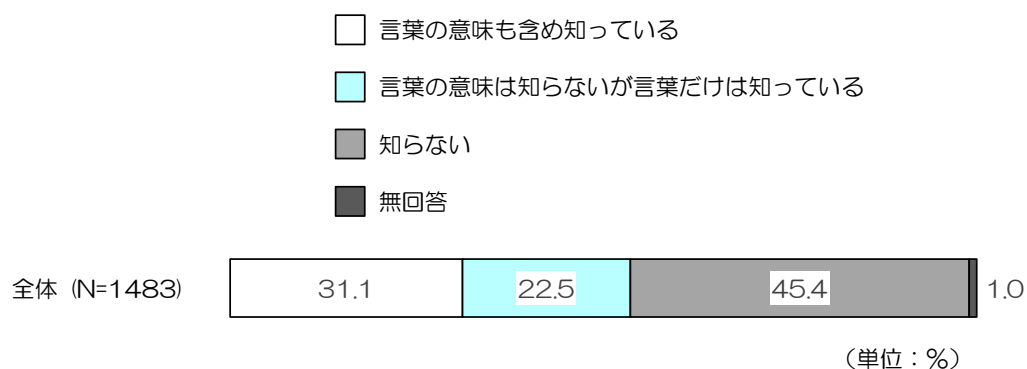
## 5 多文化共生について

### (1) 「多文化共生」の認知

問 28. あなたは、『多文化共生』という言葉を知っていますか。(○は1つだけ可)

「多文化共生」の認知をたずねた。「知らない」が45.4%と半数近くを占めている。「言葉の意味も含め知っている」が31.1%、「言葉の意味は知らないが言葉だけは知っている」が22.5%で、合計した認知率は53.6%となっている。(図表5-1)

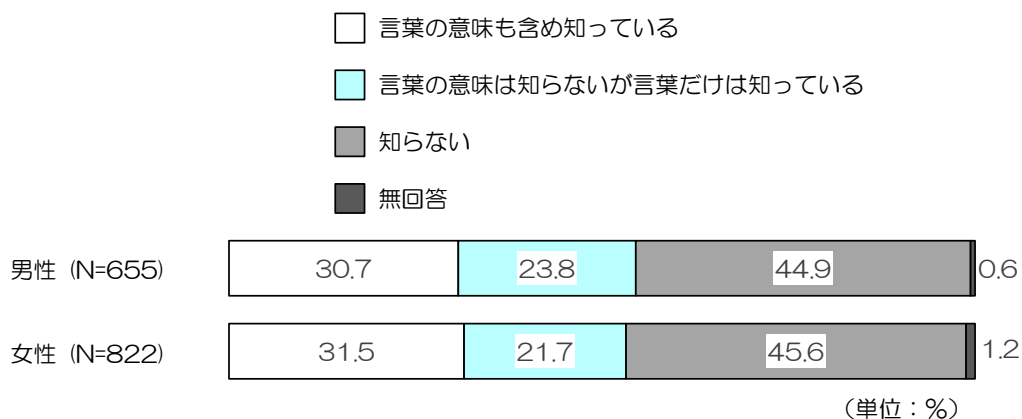
図表 5-1 「多文化共生」の認知



#### 【性別】

性別にみると、「言葉の意味は知らないが言葉だけは知っている」は『男性』が『女性』をわずかに上回っている。(図表 5-2)

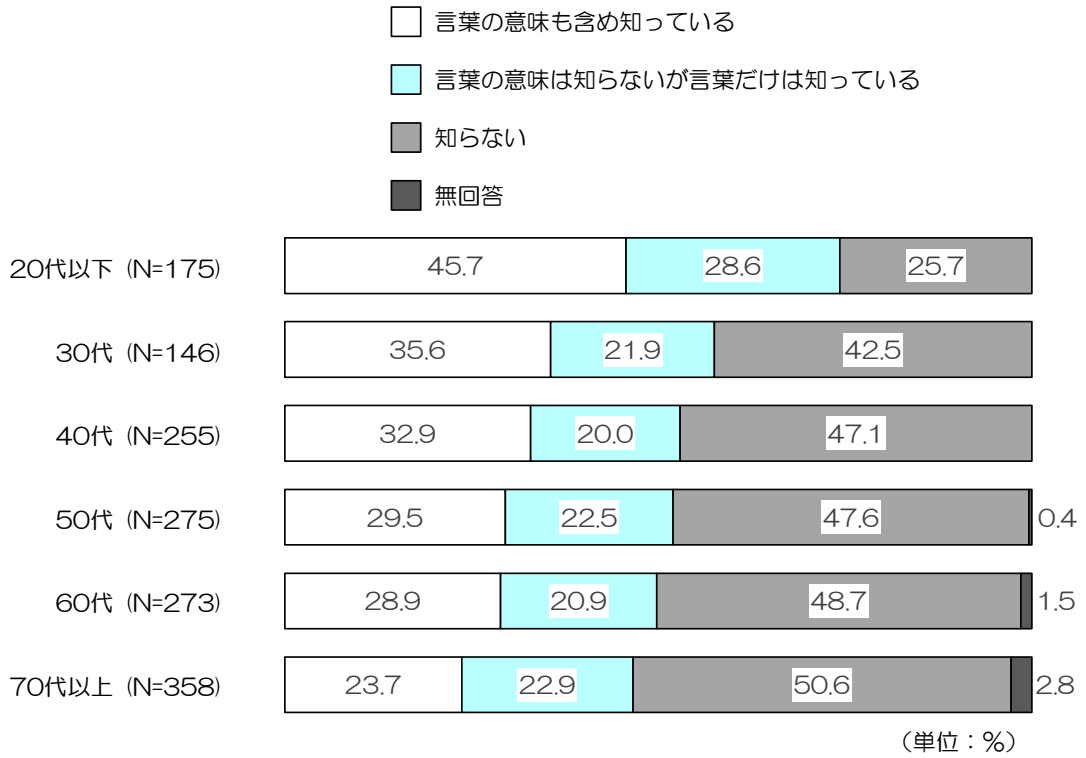
図表 5-2 「多文化共生」の認知 (性別)



### 【年代別】

年代別にみると、「言葉の意味も含め知っている」および認知率は、年代が下がるほど高くなっている。特に、『20代以下』は「知らない」が2割半と低い。(図表 5-3)

図表 5-3 「多文化共生」の認知（年代別）

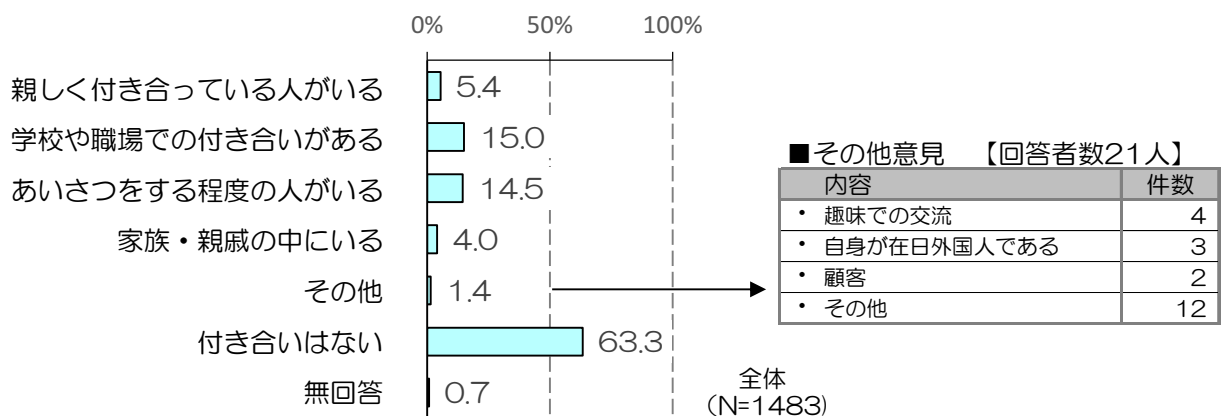


## (2) 外国人住民との付き合い

問 29. あなたは、外国人住民とどのような付き合いがありますか。(〇はいくつでも可)

外国人住民との付き合いをたずねた。「付き合いはない」が63.3%と高い割合を占めているが、付き合いのある人を見ると、「学校や職場での付き合いがある」が15.0%、「あいさつをする程度の人がいる」が14.5%と高くなっている。(図表5-4)

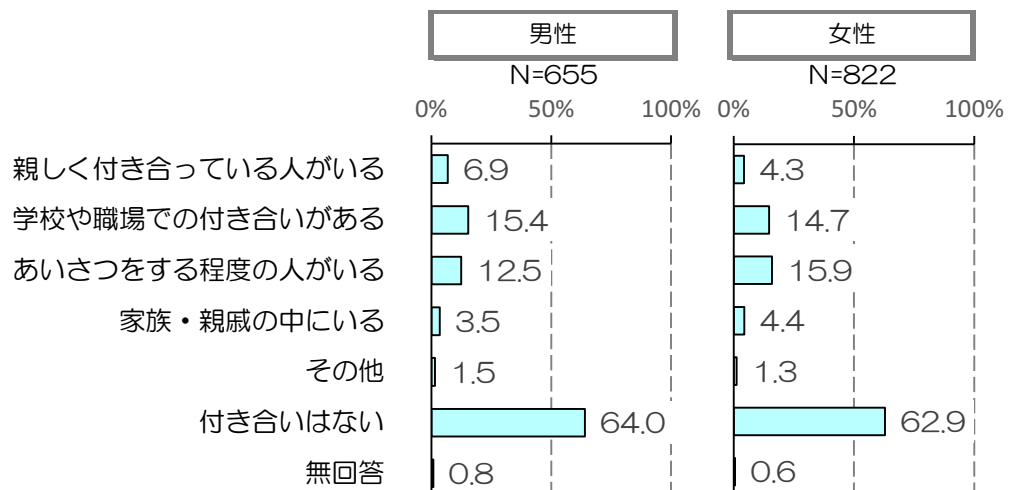
図表 5-4 外国人住民との付き合い



### 【性別】

性別にみると、「親しく付き合っている人がある」は『男性』が 2.6 ポイント、「あいさつをする程度の人がある」は『女性』が 3.4 ポイント高くなっている。(図表 5-5)

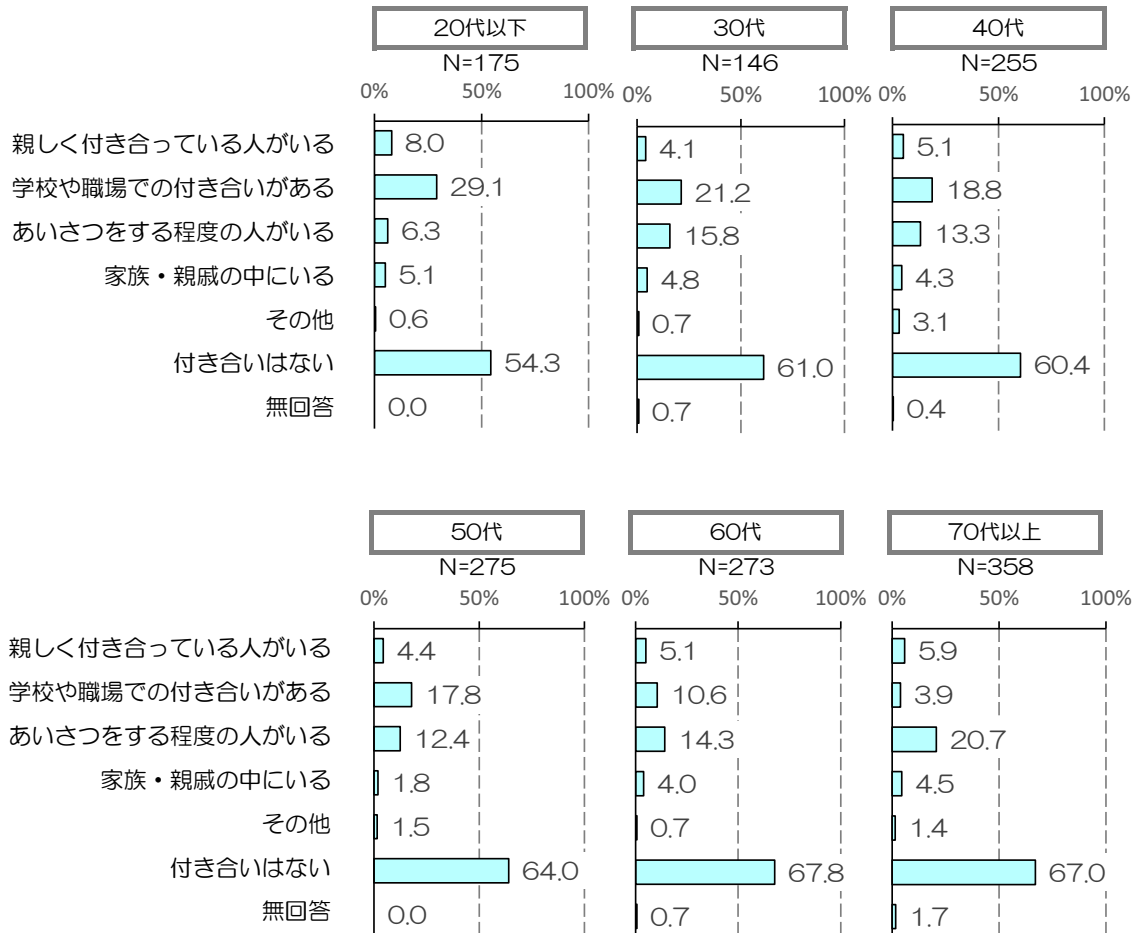
図表 5-5 外国人住民との付き合い (性別)



## 【年代別】

年代別にみると、「付き合いはない」は、年代が上がるほど高くなる傾向で、特に「学校や職場での付き合いがある」で差が大きくなっている。一方、『70代以上』では、「あいさつをする程度の人がいる」が約2割と他の年代より高くなっている。(図表 5-6)

図表 5-6 外国人住民との付き合い (年代別)

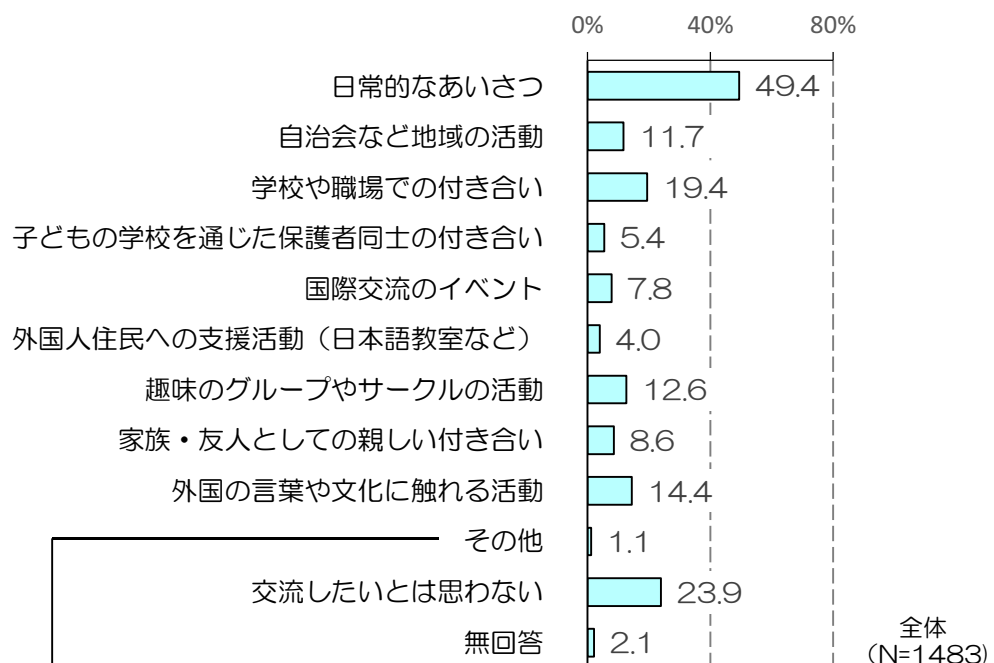


### (3) 外国人住民との交流意向

問 30. あなたは、今後どのように外国人住民と交流したいと思いますか。(〇はいくつでも可)

外国人住民との交流意向をたずねた。「日常的なあいさつ」が49.4%で特に高く、以下、「学校や職場での付き合い」が19.4%、「外国の言葉や文化に触れる活動」が14.4%、「趣味のグループやサークルの活動」が12.6%で続いている。「交流したいとは思わない」は23.9%みられた。(図表5-7)

図表 5-7 外国人住民との交流意向



■その他意見 【回答者数16人】

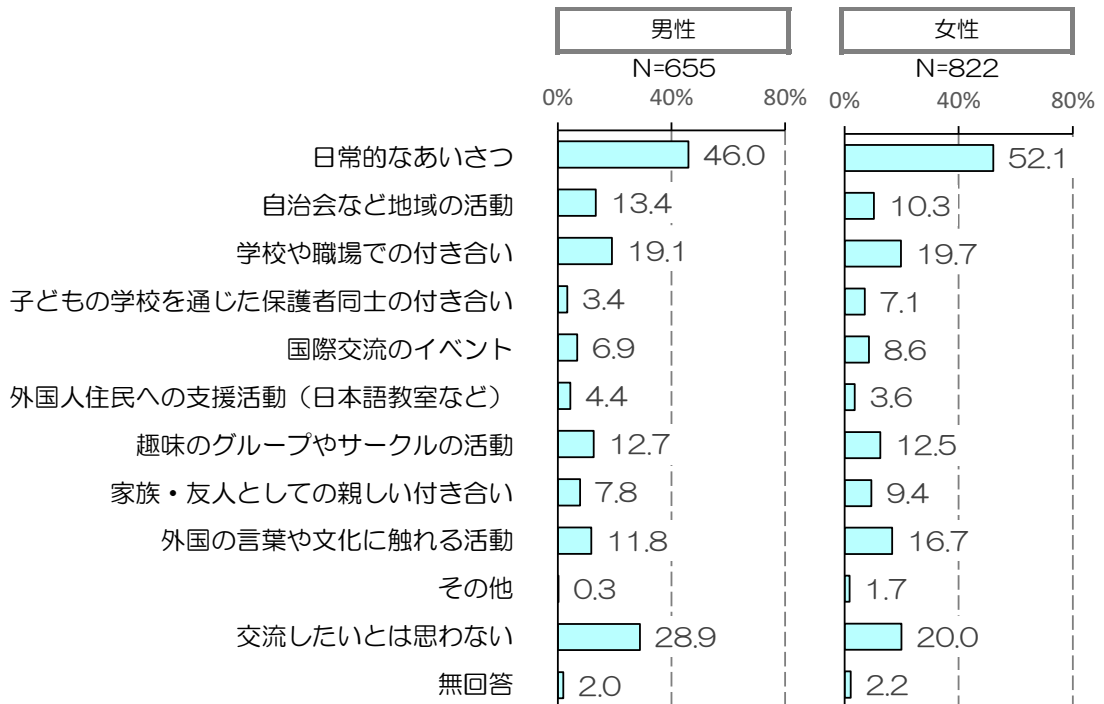
内容	件数
・外国人だからと特別意識しない	3
・その他	9
・わからない	4

## 【性別】

性別にみると、「交流したいとは思わない」は『男性』の方が『女性』より 8.9 ポイント高く、女性の方が交流意向があるといえる。

具体的な項目でみると、「日常的なあいさつ」で 6.1 ポイント、「外国の言葉や文化に触れる活動」で 4.9 ポイント、「子どもの学校を通じた保護者同士の付き合い」で 3.7 ポイント、『女性』の方が高くなっている。一方、「自治会など地域の活動」は、『男性』の方が 3.1 ポイント高い。(図表 5-8)

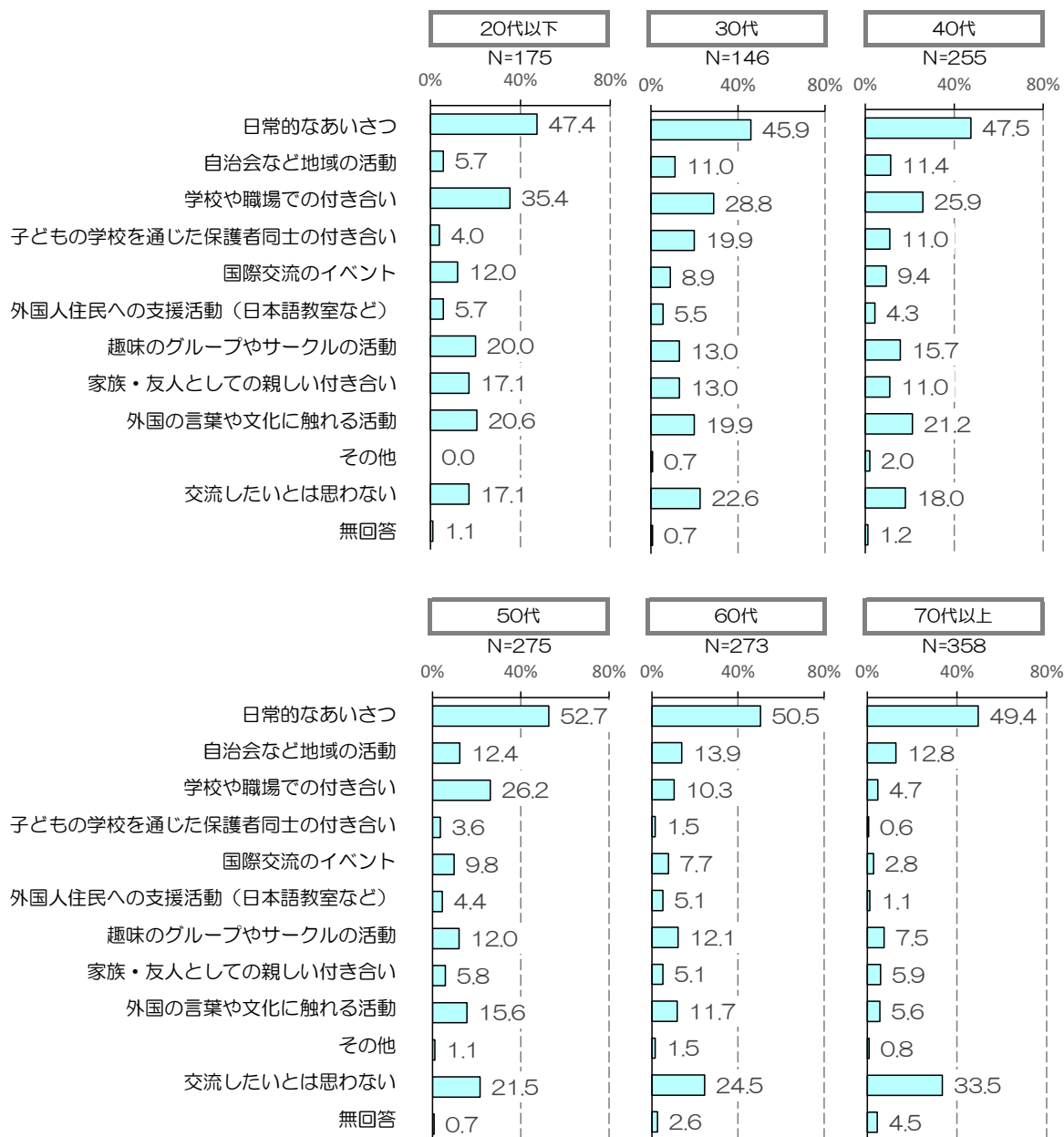
図表 5-8 外国人住民との交流意向（性別）



## 【年代別】

年代別にみると、「交流したいとは思わない」は『20代以下』『40代』で2割弱と低く、『70代以上』で3割強と高くなっている。「日常的なあいさつ」は、いずれの年代でも4割半～5割強となっているが、「学校や職場での付き合い」は、年代が下がるほど高い傾向があり、『20代以下』で3割半だが、『70代以上』では1割未満である。「外国の言葉や文化に触れる活動」は、『40代』以下で2割前後と高く、「子どもの学校を通じた保護者同士の付き合い」は、『30代』でのみ、2割弱と高い。(図表 5-9)

図表 5-9 外国人住民との交流意向 (年代別)

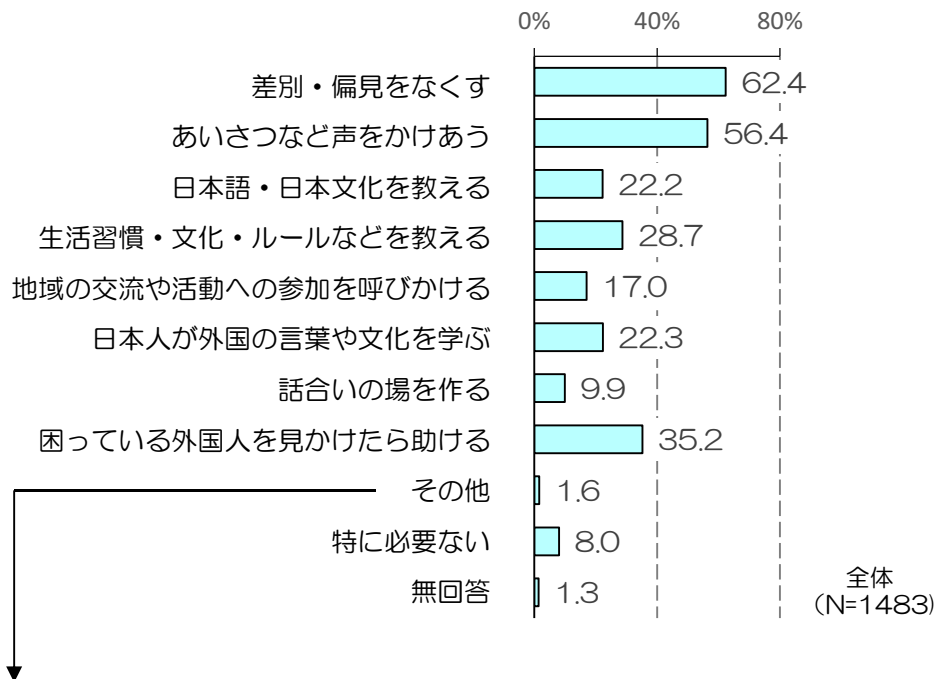


(4) 外国人住民と日本人住民が共に暮らしやすい地域にするために地域の人ができること

問 31. 外国人住民と日本人住民が共に暮らしやすい地域にするために、地域の人ができることは何だと思えますか。(〇はいくつでも可)

外国人住民と日本人住民が共に暮らしやすい地域にするために地域の人ができることをたずねた。「差別・偏見をなくす」が62.4%で最も高く、「あいさつなど声をかけあう」が56.4%、「困っている外国人を見かけたら助ける」が35.2%で続いている。(図表5-10)

図表 5-10 外国人住民と日本人住民が共に暮らしやすい地域にするために地域の人ができること



■その他意見 【回答者数24人】

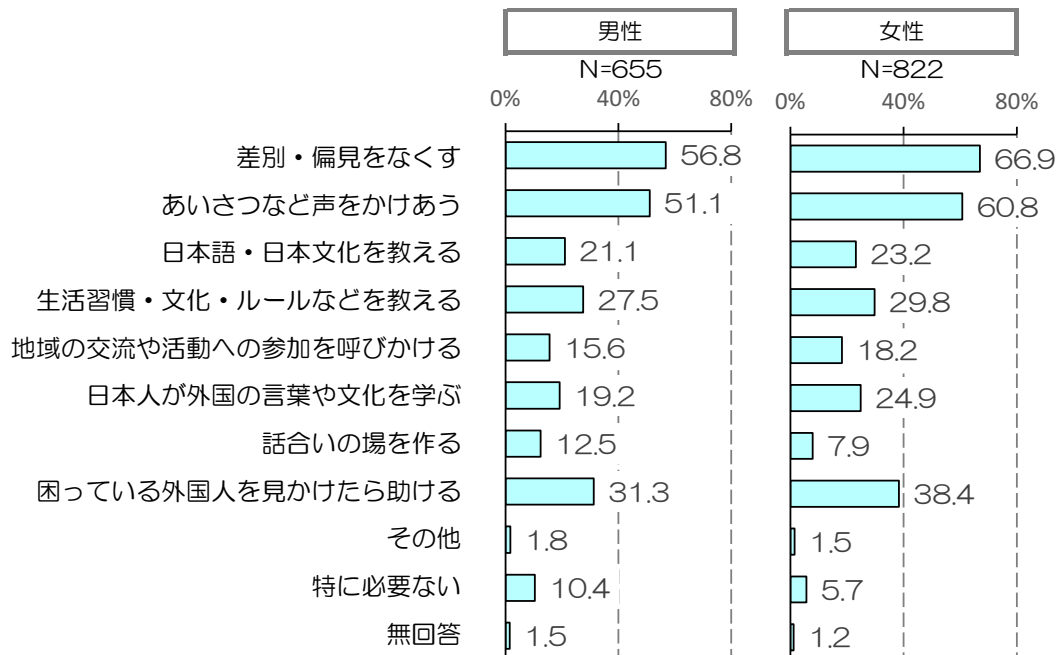
内容	件数
・ 言語的な交流	3
・ マナーの向上	2
・ その他	17
・ わからない	2



## 【性別】

性別にみると、「話し合いの場を作る」「その他」「特に必要ない」以外は『女性』が『男性』を上回っており、特に、「差別・偏見をなくす」で 10.1 ポイント、「あいさつなど声をかけあう」で 9.7 ポイント、「困っている外国人を見かけたら助ける」で 7.1 ポイントの差がみられた。(図表 5-11)

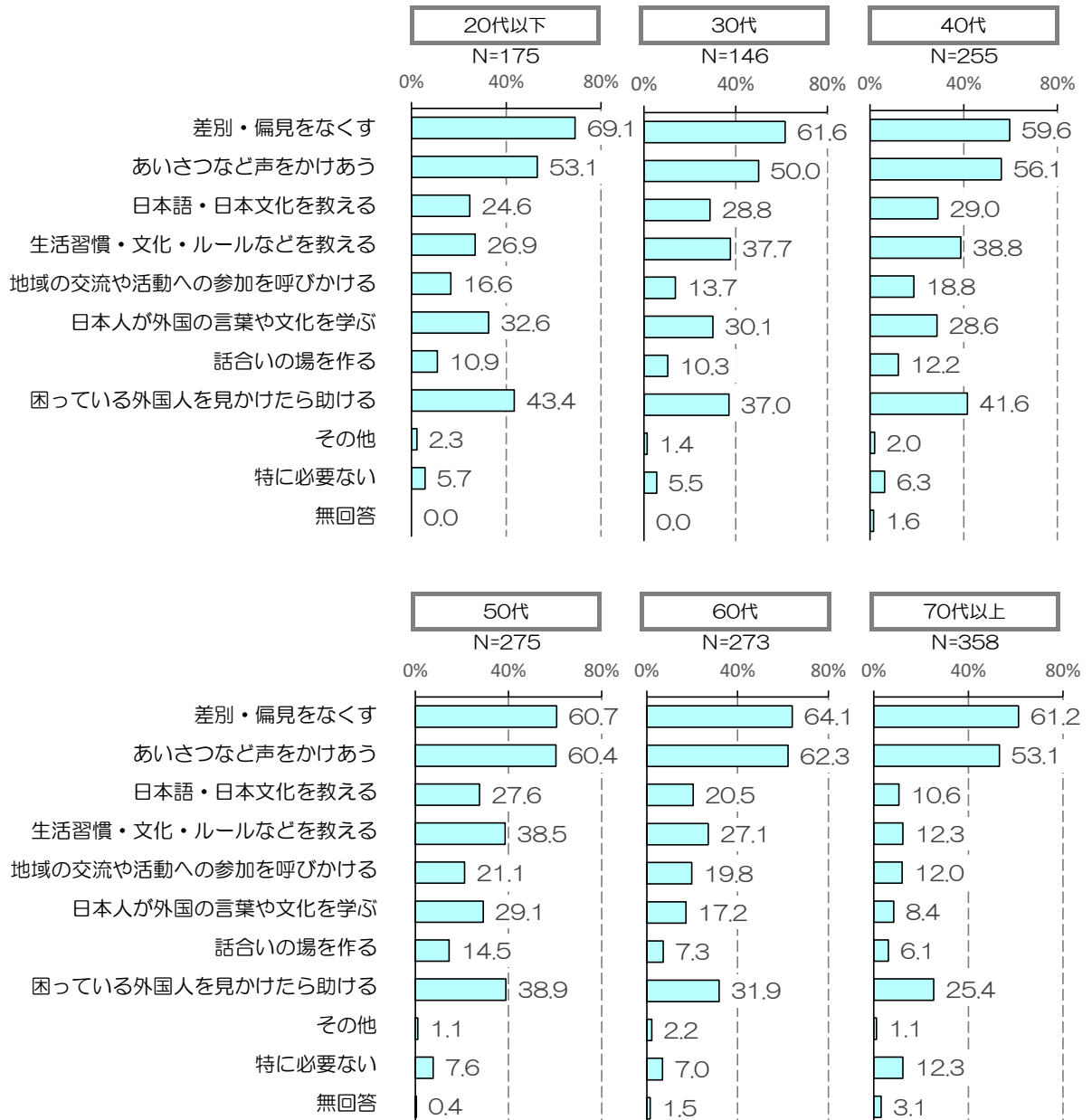
図表 5-11 外国人住民と日本人住民が共に暮らしやすい地域にするために  
地域の人ができること（性別）



## 【年代別】

年代別にみると、「差別・偏見をなくす」は『20代以下』、「あいさつなど声をかけあう」は『50代』『60代』、「生活習慣・文化・ルールなどを教える」は『30代』～『50代』、「日本人が外国の言葉や文化を学ぶ」は『50代』以下、「困っている外国人を見かけたら助ける」は『20代以下』『40代』で高くなっている。(図表 5-12)

図表 5-12 外国人住民と日本人住民が共に暮らしやすい地域にするために  
地域の人ができること（年代別）

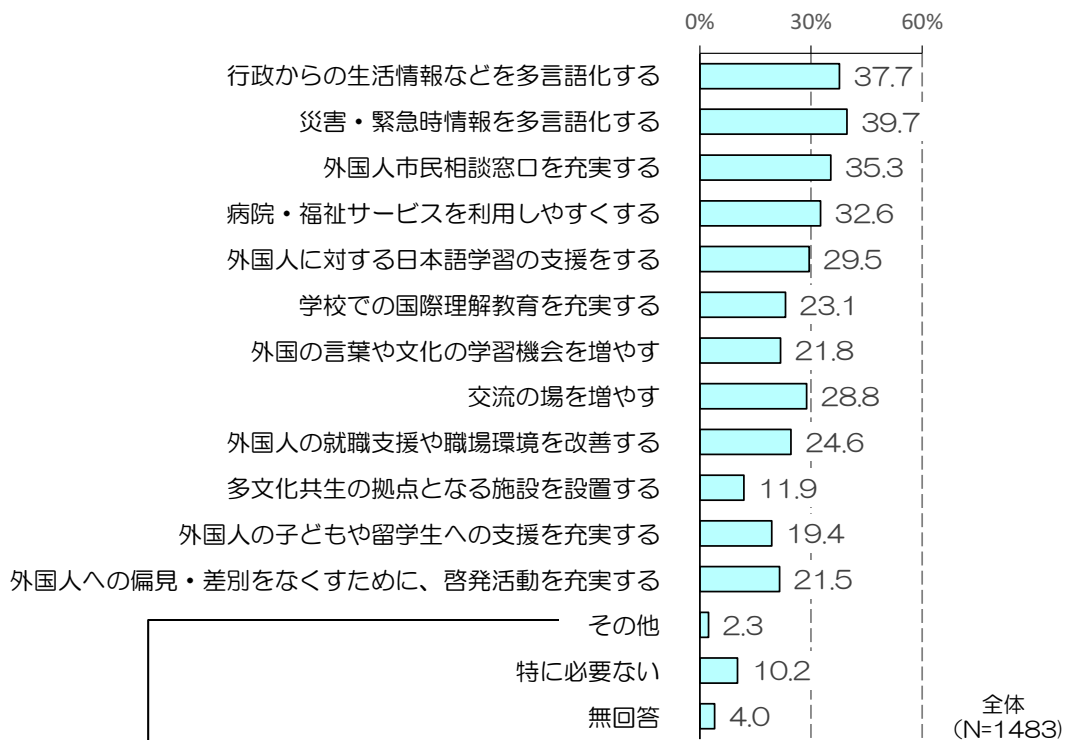


(5) 外国人住民と日本人住民が共に暮らしやすいまちにするために行政に求める取組

問 32. 外国人住民と日本人住民が共に暮らしやすいまちにするために、行政はどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。(〇はいくつでも可)

外国人住民と日本人住民が共に暮らしやすいまちにするために行政に求める取組をたずねた。「災害・緊急時情報を多言語化する」が39.7%で最も高く、以下、「行政からの生活情報などを多言語化する」が37.7%、「外国人市民相談窓口を充実する」が35.3%、「病院・福祉サービスを利用しやすくする」が32.6%で続いており、生活に欠かせない分野が上位に並んだ。(図表5-13)

図表 5-13 外国人住民と日本人住民が共に暮らしやすいまちにするために行政に求める取組



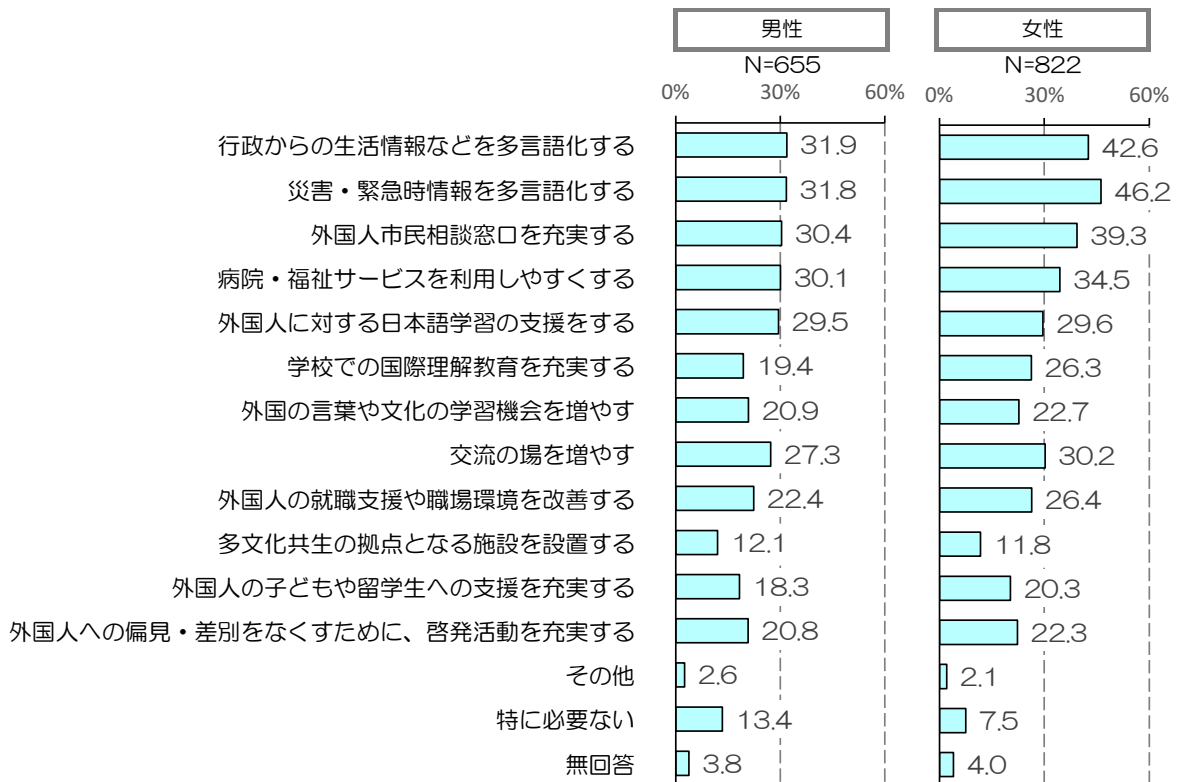
■その他意見 【回答者数34人】

内容	件数
・ 外国人に生活習慣やルールを教える場を設置する	5
・ 外国人住民に関する相談窓口の充実	2
・ その他	18
・ わからない	9

## 【性別】

性別にみると、ほとんどの項目で『女性』が『男性』を上回っており、特に、「災害・緊急時情報を多言語化する」で 14.4 ポイント、「行政からの生活情報などを多言語化する」で 10.7 ポイント上回った。  
(図表 5-14)

図表 5-14 外国人住民と日本人住民が共に暮らしやすいまちにするために  
行政に求める取組（性別）



## 【年代別】

年代別にみると、全体的に『70代以上』は他の年代より低くなっているが、「外国人への偏見・差別をなくすために、啓発活動を充実する」は年代差があまりみられない。「外国人市民相談窓口を充実する」は『50代』、「外国人に対する日本語学習の支援をする」「学校での国際理解教育を充実する」は『30代』、「交流の場を増やす」は『40代』『50代』で高くなっている。（図表 5-15）

図表 5-15 外国人住民と日本人住民が共に暮らしやすいまちにするために  
行政に求める取組（年代別）

